

茨城高等学校・中学校

## 校長室だより

2026年3月13日

### 寄稿「茨城中学校の思い出」 JFEホールディングス社長 北野嘉久さん

今回の校長室だよりは、JFEホールディングス社長・北野嘉久さんから寄稿いただいた文章を、生徒諸君にご紹介します。

北野さんは、1973年に茨城中学校を卒業された本校のOBです。1982年、東京工業大学（現東京科学大学）大学院卒業後、川崎製鉄に入社、技術者として勤務をされました。2019年に川崎製鉄を前身とするJFEスチールの代表取締役社長、2024年にはJFEスチール、JFEエンジニアリング、JFE商事をグループとするJFEホールディングスの代表取締役社長に就任、生産現場での人工知能の活用などを進めた実績をお持ちです。

今回、本校が創立100周年を迎えるにあたり、北野さんに寄稿をお願いしたところ、快諾していただきました。感謝の思いで、校長室だよりとして配信させていただきます。

#### 茨城中学校時代の思い出

#### 茨城中学校 第26回(昭和48年)卒業 北野嘉久

二歳年上の兄が日立市の小学校を卒業し、茨城中学を受験合格し、通っていたので、自分も何の抵抗もなく同じ道を歩みました。当時では水戸市で唯一の男子校だったと思います。毎日朝6時30分に家を出て国鉄常磐線で日立から水戸まで通っていました。入学して最初に驚いたことは水戸市の小学校から入学してきた同級生たちが大人びていた(少なくとも自分より)ことで、学校での友達の話題は、前日のラジオの深夜放送内容(当時1970年初頭はオールナイトニッポンやセイヤングが大人気、曜日ごとにパーソナリティが変わり、とくに野沢那智さんや愛川欽也さんが人気だったと記憶しています)、洋画(男優ではアランドロンさん、女優ではブリジッドバルドーさん)、洋楽(すでに解散していたビートルズやサイモンとガーファンクルなど)などで、自分にはそれまでに聞いたことのない内容ばかりでした。先生方はというと、超(が付くほど)個性的な先生ばかりでした。英語の加藤先生(高齢だったこともあり、皆加藤老人と呼んで親しんでいました、名言はカンマ[.]のことをどういうわけか「オタマコンポチ」と言って生徒を笑わせていた記憶が残っています)、生物の吉武先生(若く熱血漢で我々の年代が初めてのクラス担任ということもあり、兄貴分のような存在でした)、理科の大関先生(長髪が嫌いで、髪を伸ばしていた同級生を見て、不潔だと言って理科実験室の水道蛇口でその生徒の髪を先生が冷水で洗い始めた)

など今でも強い印象が残っています。

今思えば茨城中学の先生方は個性的ですが、真剣に生徒たちと対峙してくれていたと思います。特に吉武先生には情熱ある指導を授かりました。テストの成績など利用して、個人ごとに他の生徒に対して劣っている部分、優れている部分を客観的データで示してくれました。放課後には生徒と一緒に1500m程度(確か当時は7分コースと呼んでいたジョギングコース)を走ったり、我々が高校進学後(当時は約半分が茨城高以外に進学)もハイキングや登山に誘ってその後の教え子たちの成長を見守ってくれていました。生徒を指導するにあたり熱意を持って真剣な態度で生徒と接しておられたその姿は、のちに自分が社会人としてマネージメントに必要なスキル(人材育成やリーダーシップなど)を学んだような気がします。

クラブ活動は卓球部に入り3年間頑張りました。当時の卓球部は県内でも強豪で3学年上の先輩は県大会個人戦チャンピオンでした。自分達の代は同級生が県大会レベルの実力でした。自分はそのままで上達しませんでした。同級生の活躍で3年時には団体戦で水戸市チャンピオンとなったことを記憶しています。練習は厳しかったですが、中学時代に同級生と卓球の面白さを体感できたことでその後も現在に至るまで卓球を継続しており、今でも月1回は会社の体育館で汗を流しています。

このように自分にとっての茨城中学での先生方や同級生には本当に多くの刺激を受け、多感な青春時代に大切な経験を授けていただいたと、今でも感謝をしております。当時を思い起こすと懐かしさがこみあげてきます。実現できていませんが、同級生たちと再会の機会を作り、ぜひ旧交を温めたいと思っています。

※「校長室だより」は、本校のHPにも掲載しています。バックナンバーを読みたい人は、HPの「学校案内」→「校長室だより」からどうぞ。